令和３年度　林業普及週間現地情報(10/３～10/９)

森林管理課

「首里城復元に係る県産木材の利用」について

10月３日（日）

令和３年10月３日(日)、沖縄県、沖縄県立芸術大学、琉球大学の共催による「首里城再興学術ネットワークシンポジウム2021 ～ 首里城の復興、まちづくり、琉球文化のルネサンス ～ 」がオンラインで開催され、沖縄県森林管理課から「首里城復元に係る県産木材の利用」について発表した。

国は、首里城正殿の復元に向けて「1712年に再建され、1925年に国宝指定されたものに復元する」ことを原則とし、「往時の首里城に使用されていたチャーギ(イヌマキ)及びオキナワウラジロガシについて可能な限り活用する。」ことを方針としている。

本シンポジウムでは、イヌマキについてはキオビエダシャクという病害虫の被害により、沖縄県内で大木は確認されなかったものの、オキナワウラジロガシについては現地調査の結果、８本の候補木が確認されたことなどを発表した。

この現地調査では多くのオキナワウラジロガシが見つかったが、大枝が発生するとその先から細くなるため、通直で直径が47㎝以上かつ７ｍの材がとれるものは中々見つからなかった。

今回の発表を聞いた視聴者からは「立木の腐朽診断の方法」や「使用されるオキナワウラジロガシの年輪を調べてほしい」、「県産木材を推奨する意義」等の質問を多数いただいた。

首里城復元にあたり多くの県産木材を取り入れて、県内外、国外に対する本県の森林･林業の発信にもつなげていきたい。

オンラインによる発表状況

（報告者：森林管理課 比嘉、仲里）